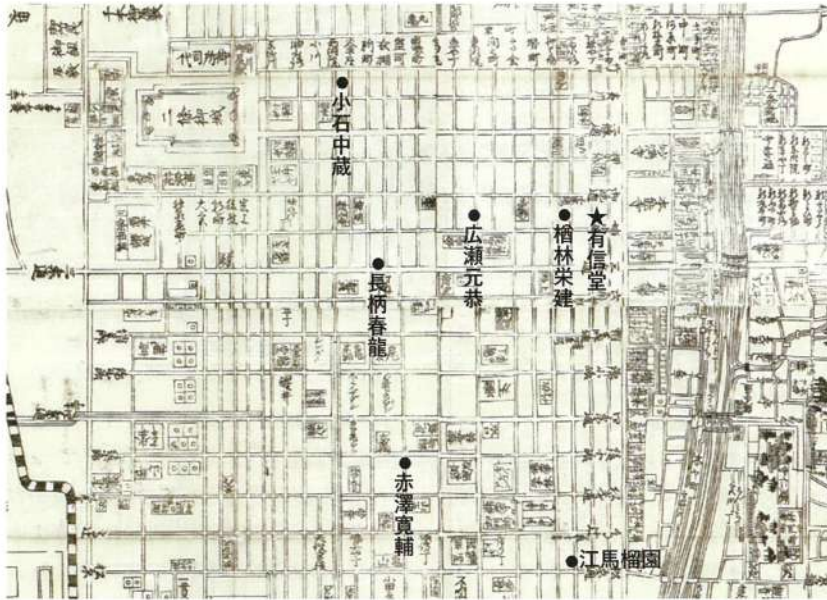


除痘館記念資料室だより

緒方洪庵記念財団 除痘館記念資料室 第18号

OGATA KOAN MEMORIAL FOUNDATION, THE ARCHIVES OF SMALLPOX VACCINATION HOUSE, OSAKA. NEWSLETTER, NO. 18.



嘉永5年(1852)ごろの住所位置

「京都大絵図：新版」文久3年(1863)版 国際日本文化研究センター所蔵

- ・京都の種痘所「有信堂」
..... 有坂 道子
- ・「明石藩種痘医・松浦元瑠」再考
..... 古西 義磨
- ・心に刻む除痘館関連記念物、二題
—初代除痘館跡の碑と「陽だまりの樹」の
ファイル制作—
..... 川上 潤
- ・緒方洪庵の師、中天游について
..... 緒方 高志
- ・村井俊蔵の鈴鹿伝苗とモーニッケに
寄せる想い
—新収蔵史料の紹介—
..... 浅井 允晶
- ・【短 信】
..... 除痘館記念資料室

京都の種痘所「有信堂」

有坂 道子

嘉永2年(1849)6月、佐賀藩医榎林宗建らの尽力により、バタヴィアからもたらされた牛痘瘰を用いたモーニッケによる牛痘種痘が長崎出島で成功した。その後、長崎からいち早く痘苗が伝えられたのは京都である。ルートは二つあり、一つは、後に緒方洪庵が分苗を受けることになる日野鼎哉・笠原良策らが入手したルート、もう一つは榎林宗建の兄にあたる榎林栄建が中心となって取り寄せたルートである。後者は、栄建のほか小石中蔵ら京都の医家が協力し、鳩居堂を営む篤志家の熊谷直恭から持ち家の提供を受けて、種痘所「有信堂」を立ち上げ、種痘事業をスタートさせた。場所は本能寺の西、御幸町姉小路上ル(★印)である。有信堂設立に関わったのは、榎林栄建・小石中蔵・江馬櫛園・赤澤寛輔・長柄春龍・豊岡頼泰・広瀬元恭、それに吉田図書(蘭曉)を加える史料もあるが、

いずれも蘭方を心得る医家である。

おそらくこれに先立って、京都の蘭方医家の間で西洋医学の勉強会としての「有信社」の結びつきがあったようである。小石家は元俊、元瑞、中蔵と続く京坂蘭医学界の中心的存在であるが、その究理堂文庫に残る稿本『種痘新全』(題名は『牛痘種法新全』と加筆修正がある)に「始メ、カンスタット内科書原本ヲ購ントテ、有信社六名醸金シテ榎林宗建氏ヲ介シテ長崎通弁家某ニ依頼セシニ、終ニ之ヲ得ス、督責スルニ(強く督促したところ)月ヲ経テ同氏ノ種痘書ヲ送ラレタリ」と書き込みがあり、有信社の六名がドイツの内科医カンスタットの内科書を入手しようと働きかけたが上手くいかず、代わりに彼の種痘書を手に入れた経緯を知ることができる。そして、赤澤寛輔から小石中蔵へ宛てた書簡に「明十五日は貴家(小石中蔵)の御順番御座

候間、カンスタット持たせ差し上げ候・・・(体調がすぐれなければ)右之ブック榎林(栄建)氏方へ御廻し下されたく希上げ候」とあることから、この種痘書は有信社のメンバーで輪読していたことがわかる。やがて有信社は有信堂での種痘実践という新たな段階へと進み、前述の『種痘新全(牛痘種法新全)』は巻首に「京師 有信堂社 合著」と記され、有信堂社中による共同研究の成果としてまとめられていく。本書が刊行に至らず稿本のままとなった理由は、先んじて緒方郁蔵が『散花錦囊』を出版したことが大きい。

有信堂は、その後場所を移しながら幕末に至り、禁門の変による焼失や幕府倒壊による活動中止を挟んで、明治に入ると京都府の管轄下で種痘事業を継続した。小石中蔵らも府御用医としてその推進に寄与していくのである。(京都橘大学・教授)

大阪の「除痘館」は、幕末に導入されたエドワード・ジェンナー開発の牛痘種痘法を用いて牛痘苗(ワクチン)接種により天然痘(痘瘡)禍から人々を救った緒方洪庵を核とする医師たちの活動拠点。種痘所とも称する。



磯部長恒の「覚書」と貼付された「種痘引札」

にたずさわり、とりわけ牛痘種痘を推進している一人として、自らの師とも仰ぐモーニッケに「面會」したいという思いに駆られ、それを実現させようと試みた。しかし、残念なことに、「行違ひて、空しく其事を遂得られさりき」という事態に陥ってしまった、というのである。

もとより、いつ頃、どのあたりで態勢を整え、いかなる方法でそれを試みたかについては詳らかでない。その試みが功を奏さなかったことは、無念の極みであったであろう。村井にとってモーニッケは牛痘苗をわが国にもたらした恩人であったし、「蘭師」として特別な存在でもあった。このため、こうした遭遇は又とない機会であっただけに、その行き違いに、村井は無念の思いを噛みしめたことと思われる。村井のモーニッケに「面會」という夢は、実現することなく、つひえるに至ったのであった。

このように、大坂除痘館の「種痘引札」に

貼付した磯部長恒の覚書には、嘉永3年の春に村井が鈴鹿の地で活動した種痘普及の様相や役割のみならず、村井の「蘭師」モーニッケを慕う心情の一端までが写しだされるに至っている。その意味では、この時期における村井俊蔵の伊勢での活動の実態がさらに明確になってきたし、そのうえ長恒と村井の話の中で、モーニッケが特別な存在の「蘭師」として位置づけられていることも判明する。

この村井のモーニッケに対する位置づけや思い入れは、蘭方をも採り入れ、とりわけ牛痘種痘を促進していた立場の中で形成されたものであったといえるが、そうした観点からいえば、その位置づけや理解、あるいはその思い入れは、いわゆる牛痘種痘医のみならず、蘭方系あるいはそれに準ずる医家たちに共通するものであったかもしれない。

以上のように見てくると、この覚書は、短いながらも興味深い内容を持つという点で留意すべき史料となる。

※本稿をなすにあたっては、当財団の除痘館記念資料室・専門委員、古西義麿氏にお世話になった。厚く御礼申し上げる次第である。

(緒方洪庵記念財団、

除痘館記念資料室・専門委員)

【短 信】 判読文字の訂正

『除痘館記念資料室だより』第14号所載の写本史料『痘瘡かるくする傳』の判読文字中、6頁2段目最終行の推定部分の確認ができました。訂正させていただきます。

〔訂正箇所〕

(第14号、6頁2段目最終行)

「輕痘□□(欠、二致カ)⇒輕痘を得」

お世話になりました青木郁夫氏に感謝申し上げます。

除痘館記念資料室 ご利用の手引き

- ◆利用時間 午前10時～午後4時(土曜日の利用は午前中のみ)
- ◆休 日 日曜日・祝祭日・年末年始(臨時の休日あり)
- ◆参 観 料 無 料 ◆所 在 地 緒方ビル 4階

発行：緒方洪庵記念財団 除痘館記念資料室

『除痘館記念資料室だより』第18号 NEWSLETTER, NO. 18.

OGATA KOAN MEMORIAL FOUNDATION,

THE ARCHIVES OF SMALLPOX VACCINATION HOUSE, OSAKA.

〒541-0042 大阪市中央区今橋3丁目2-17. 緒方ビル

TEL(直通) 06-6231-3257. FAX. 06-6231-3256.

